

みんなで学校改革を

2005～2007年度 静教組教育政策提言

総論「静教組のめざす学びと学校のあり方」

豊かな人間関係に基づいた学力の育成

学校は、子どもたちが様々な考えに触れ、自他の違いを認め合いながら成長していく「学びの共同体」であり、市民社会の入り口として機能する必要があります。自分の考えを思うように表現できない子どもや、傷つきやすい子どもが増えてきている今、他者との「人間関係づくり」が大切です。それはいわゆる「仲よし」という関係で終わるのではなく、「一人一人が互いの違いを認めた上で尊重し合い、自己肯定感をもち、共生を通してそれぞれが自立し、自己確立していくための、厳しさのある人間関係づくり」が必要であると考えます。

そこで、静教組は学力を「基礎的・基本的知識や体験をもとに自ら課題を見つけ、他者との関わりの中で主体的に判断し、行動できる力」ととらえ、学校の教育活動を検証し、保護者・地域とともに学校改革を推進していきます。

家庭・地域との連携から協働へ

核家族化や少子化がすすむ中、子どもたちが社会的なルールやマナーを身に付けられるようにするためには、家庭・地域の教育力の充実が不可欠であり、学校も含めた三者が一体となって子育てを行うことが重要です。特に、子どもたちの豊かな人間関係づくりにおいて、保護者・地域・学校の連携はこれまで以上に大切であり、「連携から協働へ」の意識改革を図っていく必要があります。学校が計画した行事や活動に保護者や地域の人々が参加・協力するという「連携型」を発展させ、計画の段階から保護者や地域の代表と教職員が協議する「協働型」が望まれます。その際、大人の視点だけによる行事等の実施ではなく、子どもたちの意見も尊重し、子どものニーズに即したものになるような協働体制の確立を図っていきたいと考えます。



提言1 「学びの共同体」としての学校づくり

- 1 地域と学校が一体となり、総合学習の充実・発展をめざすこと。
 - ◆地域や一般の人々と関わりながら学習を広げられるようにすること。
 - ◆子どもたちの多様な課題や追求方法に対応するため、人的・物的予算措置を行うこと。
- 2 子どもたちが、豊かな環境の中で意欲的に学習することができるようにすること。
 - ◆学校や家庭における充実した学習・生活環境づくりに、教職員と保護者が協力してとりくむこと。
 - ◆学校図書館の充実を図ること。司書教諭の全校配置及び専任図書館司書の配置、設備・蔵書を充実させること。
- 3 教職員の資質向上と学校の活性化のために、自主的・自律的な教職員研修制度を確立すること。
 - ◆自主研修及び校内研修の充実を図るため、時間の確保や予算措置等を行うこと。
 - ◆専門的知識や技能を高めるため、長期研修制度を拡大・充実すること。

提言2 家庭・地域・学校の協働による子育て

- 1 家庭・地域でのしつけと学校における指導が一体となり、子どもが社会的・基本的な生活習慣を身に付けられるようにすること。
 - ◆PTA活動・家庭教育学級・地域教育懇談会など、子育てについて語り合う場を増やすこと。
 - ◆健康教育や食教育にとりくむこと。
- 2 子どもたちに体験の場を提供するなど、地域全体で子育てを保障すること。
 - ◆地域行事の計画や運営に子どもたちの意見を反映させること。
- 3 地域に根ざした教育改革を推進すること。
 - ◆子ども・保護者・地域住民の参加や意向を反映するために、学校協議会・地域教育協議会の設置及び充実を図ること。
 - ◆学校が「地域コミュニティセンター」として機能するために、人的・物的予算措置を行うこと。
- 4 学校の安全対策や施設整備、地域の安全対策など、学校・地域のあり方について協議し、具体的な対策をとること。

提言3 30人以下学級の早期実現と学校裁量権の拡大

- 1 児童・生徒の実態に柔軟に対応するため、30人以下学級の実現を図ること。
 - ◆静岡県独自の学級編制基準により、30人学級を基準とした予算措置を行うこと。
- 2 学校運営方針や児童・生徒の実態に基づいて、学習内容や予算・人事・学級編制等を決定することができるよう、学校の裁量権を拡大すること。
 - ◆学校裁量の予算を計画的に使うため、事務職員の研修の機会を保障するとともに、適切な職員配置を行うこと。
 - ◆教育委員会は、自主的・自律的な学校運営を行うことができるよう、支援機能を強化すること。

提言4 子どもや保護者のニーズに応じた高校教育改革

- 1 子どもたちが学ぶ意欲や将来への夢をもてるよう、高校入学者選抜制度を改善すること。
 - ◆選抜資料の活用方法をより明確にするなど、前・後期制の選抜制度を抜本的に見直すこと。
 - ◆各高校が「育てたい」生徒像を明らかにし、特色ある教育をすすめること。
- 2 高校間・中高間の連携を広げ、子どもたちの多様なニーズに応じた学習ができるようにすること。
 - ◆地区にある複数の高校が連携し、互いに生徒の受け入れを可能にすることにより、子どもたちの興味・関心に応じた学習ができるようにすること。
 - ◆高校と隣接する複数の中学校との連携により、教員の交流や中高一貫教育を推進すること。